

# E パーソン

デジタル化支援のミヤックス(仙台市)は、仙台市中心部のアーケード街に人工知能(AI)カメラやビームコン(電波受信器)を設置して人の流れを分析することで、効果的な集客策を探る取り組みを進める。目指すのはデジタルを通じた地域の課題解決。高橋蔵人社長は「デジタルの力で売り手、買い手、世間の『三方よし』を実現させたい」と意気込む。

(池田隆平)

一人の流れを測ってイベント企画などに役立てる「仙台まちテック」を昨夏

## AIで人の流れを測定

ミヤックス(仙台市)

高橋 蔵人 社長



たかはし・くらんど カリフォルニア州立大卒。東京で外資系コンサルタント会社に勤めた後、祖父が創業したミヤックスに2010年入社。22年、3代目社長に就任。東北大データ駆動科学・AI教育研究センター特任准教授も務める。40歳。仙台市出身。

# デジタルで課題解決

から主導している。

「JR仙台駅周辺の往来が活発化する影で、近年は中心商店街の落ち込みが著しい。このままではアーケード街の活気が失われるという危機感があった」

5社と連携した。藤崎は商店街と手を組み、スタンプラリーを実施。飲食業のハミングバード・インターナショナル(仙台市)は、青葉区国分町の店舗前を通るのが、20〜40代が中心と分り、親和性の高い交流する。従来の勘と経験に頼る。

「データを使うことで再現性を高めることができ、従来からの勘と経験に頼る。従来の勘と経験に頼る。従来からの勘と経験に頼る。」

「生き残るのはIOO社に1社という厳しい世界。成功にはデータとAIの活用が不可欠と訴えたい。私はAIによるデータ解析ツールを提供する会社を興し、事業化に成功した実績もある。そうした体験も伝えていきたい」

—今後の展望は。

「宮城県大衡村に世界的な半導体企業の工場が来る。大事なのは、地元企業がこうした追い風に乘れるように力を高めること、次代を担う若い人材の育成だ。宮城県仙台市、宮城大、コンサルティング大手アクセンチュア、当社の4者が協働し、人口減少や高齢化といった地域課題の解決に挑戦していく」

とうほく経済